

開会挨拶

財団法人日本生態系協会 副会長
今村 信大

皆様こんにちは。財団法人日本生態系協会副会長の今村信大でございます。開会にあたりまして、主催者を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、国際フォーラム「生物の多様性と経済の自立、健全な自治体への挑戦」を開催いたしましたところ、猛暑のなか、また足下のお悪いなか、このように多くの方々にお集まりいただき、関係者一同、心より感謝を申し上げます。また、開催に際しましては、政府諸省庁をはじめ、ドイツ連邦共和国大使館、全国知事会・市長会・町村会のほか、各学会等々よりご後援いただくなど、多くのご支援をいただきました。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

さて、本日のフォーラムは、生物の多様性と経済、そして自治体のあり方がテーマとなっております。すでにご承知のこととは存じますが、本年は「国際生物多様性年」であります。また、10月11日より、名古屋で、生物多様性条約の第10回締約国会議が始まります。この名古屋での会議を10週間後に控えた、まさしく非常にホットなこの時期に、COP10の重要テーマである「生物の多様性と経済」、「生物の多様性と自治体」の取り組みについて考える国際フォーラムを開催できますことは、自然と共存する、美しい社会の実現を目指す者といたしまして、まことに喜ばしいことであります。

生物の多様性は、私たちの豊かな生活のよりどころとしてなくてはならないものです。多様な生きものをはじめとした健全な生態系があってはじめて健全な経済や社会がなりたち、私たちの暮らしは存続できます。このことから、自然を消費する時代から、世界が力を合わせて生物の多様性を守り育むことで、自然を貯蓄し、持続的に果実を得る時代へと転換していく必要があると思います。

本日のフォーラムでは、なぜ、今経済や自治体と生物の多様性を考えなければならないのか。課題の提示とともに、その解決策について提案をさせていただくため、自治体リーダーや企業の代表の皆様を国内外よりお招きいたしました。

まず、海外ゲストスピーカーといたしまして、世界60カ所以上に生産拠点を置いて企業活動を行うなかで、生物の多様性を守る活動に取り組んでいるフォルクスワーゲン グループの環境部門の統括責任者、ギンター ダンメ様に、ドイツより来日していただきました。ダンメさんには、大手自動車メーカーが、なぜ、生物の多様性なのか、その考え方と今後の方向性などについてご紹介いただきます。

また、リレートークでは、関東地方より戸田市長と野田市長をはじめ、北海道黒松内町長、長崎県対馬市長、兵庫県豊岡市長と、北は北海道から南は九州まで、全国にわたる自治体リーダー

一にお越しいただいています。各自治体が実行されている将来を見据えた先進的な地域づくりについてご報告いただきます。さらに国内の企業の代表として、住友信託銀行の金井司様より、世界初の生物多様性・株式投資信託の開発をはじめとした、企業活動における生物多様性を守る大変興味深い取り組みについてご紹介いただけるものと思います。

本日、この会場には、生物の多様性に関わりの深い、様々なお立場の方にお集まりいただきました。皆様のご来場に、あらためて感謝申し上げますとともに、本日のフォーラムでご紹介する生物の多様性を守る先進的な取り組みが、皆様の今後の活動に役立ち、また、COP10成功への弾みとなることを強く願い、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。